

## 受賞を契機に新たに取り組んでいること

### 1) 役員・任期の見直し

- ・管理組合発足して12年が経過し、ほぼ組合員全員が理事・役員を経験し一巡した。
- ・2年の任期、6名の役員体制で事業活動を展開してきたが、19年度から任期1年、役員4名、4グループ体制で活動することになった。
- ・変更理由は以下の通り。
  - ①組合員が事業の活動内容を理解し、慣れてきたため。
  - ②役員4名体制で十分活動が可能であると判断したため。
  - ③任期2年では、組合員の家族状況が変化し、転勤するなど都合が悪いため。

### 2) 団地設計時の原点を知り、現状の把握、将来を考える

3年間の活動スケジュールを以下のように考えている。

- ・18年度：設計コンペ時の団地誕生の趣旨を再度調査し理解することで初心に帰る。
- ・19年度：団地が建設され約15年目となり、広場、緑道の植栽の成長に伴い、枯れた樹木、生長しすぎた樹木、害虫に犯されやすい樹木、街灯、工作物等を調査し現状を把握する。
- ・20年度：組合員の高齢化、世代交代を迎え、将来の維持管理のあり方を考える。

### 3) 「住まいのまちなみコンクール」対応プロジェクトチーム結成

- ・役員体制が毎年変わり従来の管理活動に専念できるように、「住まいのまちなみコンクール」対応に関しては、組合員の中から適任者を選任しプロジェクトチームを結成した。
- ・プロジェクトチームによる会議を開催し、具体的な課題の抽出、今後の取組み内容を調整中である。

### 4) 調査検討経費のたまかな使途

- ・「住まいのまちなみコンクール」受賞を記念し、ミサワホーム(株)設計推進部まちづくりグループ、スペシャリスト 高澤静明氏の講演会を開催、設計コンペ提案時の趣旨、街並みについて話していただいた。

開催日：2月25日（日）10：00～13：00

会場：県営住宅集会場

参加者：35名、開催費用：4万円

- ・現状調査に掛かる費用はプロジェクトチームで検討中である。

## 近い将来取り組むべき課題

- ・課題として、団地内の現状調査を実施、将来の維持管理を考える。
- ・生垣、建物の後退だけでなく、将来の建替え、増築を見据え、北側斜線の確保と外壁の色彩に対してもある程度の制限を加える建築協定を充実させる。
- ・守谷市は、今年4月から市内全域に景観条例が施行され、美しいまちなみを守り作ることが宣言された。この市制を受けて「オーナーズコート守谷」の維持管理活動をアピールする。